

特集：入学

広大な筑波キャンパスで

古川 誠一（筑波大学 生命環境系）

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今年の入学式は桜の開花時期にも恵まれ、気分も高まる新シーズンをお迎えのことと思います。そしてこの筑波大学、きっとみなさんのこれまで通ってきた小学校から高校までと比べるとその違いに驚かされている人も多いと思います。まず広いです。その中に宿舎や様々な料理屋さんも整備されています。自転車やバスを利用しないと休み時間の移動も大変です。きっと初めての授業では教室が見つからずに遭難して途方に暮れている人も多いのではないかと思います。ただもしかしら、このような広大なキャンパスはみなさんがこれから朝から場合によると深夜まで過ごすことになるかもしれない大学生活の中で、どんどん視野を広げていくため用意された必然性のあるものなのかもしれません。

大学は一般的に自由であると言われていています。おそらくみなさんの多くは、大学に入ったら勉強に遊びにサークルにバイトにと色々とイメージを膨らませてきたことと思います。そして実際に筑波大学での生活は、それらの活動を支援してくれる舞台を準備してくれていると思います。新しいことをすれば必ず何か新しいことを発見することができ、自分で意識しなくても経験値として積み上がっていきます。それはゲームのように数値化もされないかもしれませんが、今後相対するかもしれないモンスター・・・ではなく障害を乗り越えるための武器となってくれるはずです。そんなわけで、みなさんにはこの4年間でこれまでにできなかったような新しいことをたくさん体験していったほしいと思います。

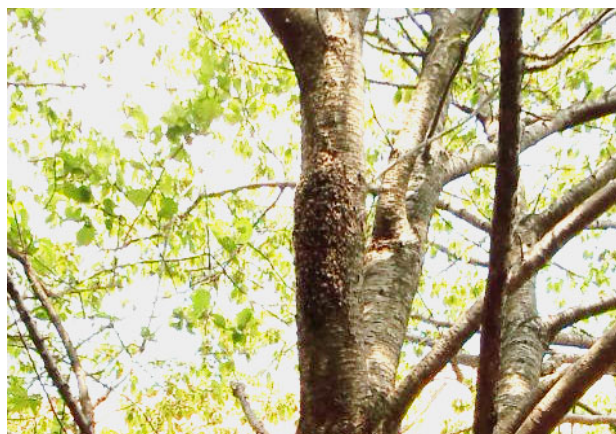
さて、大学とは学生生活と社会人生活の狭間にある大切な期間です。ちょうど私が研究している昆虫に例えると蛹に該当するのではないのでしょうか。昆虫は幼虫と成虫で、その役割や生理機能が全く変わります。蛹の期間をもつ完全変態昆虫が地球上の様々な環境に適応進化しているという事実を考えると、この期間が如何に重要なものであるか分かります。

それでは、この重要な期間にみなさんはどのような変化を遂げていく必要があるのでしょうか？学校にしても社会にしてもみなさんの行ってきた行動は周りの人に客観的に評価されます。しかしその判定方法には大きな違いがあり、学校ではどれだけ授業を理解したのかをテストやレポートによって確認される一方で、社会では外に向けて行ったことによる業績が評価されます。つまり学校ではどれだけ周りから入力できたかを定期的に確認してもらえたのに対し、社会では自分が出力しないことには、どんなに知識を吸収しても評価もゼロになってしまいます。この入力と出力はベクトルが全く逆の概念であり、劇的に変えていかなければならない最重要事項かもしれません。

とは言っても、大学での成績評価もやはり基本的には試験かもしれません。それではどうしたら社会人に必須の出力能力を身につけることができるのでしょうか？これは先ほどちょっと述べた新しい事への挑戦が大きく関わってきます。「大学に入ったら〇〇をしよう」というモチベーション、きっとみなさんは今まで以上にそのような気持ちを抱きながら入学してきていると思いますが、それらはどんな方向性であっても出力能力の向上につながります。その気持ちを忘れずに勢いよく前に進んでもらえたらと思います。

大学生活は自由というものの、時にはできれば避けて通りたいような自分の苦手な難題も降りかかってくることもあると思います。もしかしら最初は完璧に対処することはできないかもしれません。それでもまずは気持ちだけでも良いと思うので、少し頑張ってみようかなと思ってみるようにしてみてください。そのほんの少しの気持ちの積み重ねが卒業するときには精神的な成長となって、あらゆる場面に役立つ能力として身につけているはずです。

さあ、これから長い学生生活の最終章が生物学類で始まろうとしています。4年生では、卒業研究として自分一人の研究テーマを実施することと思います。研究には、知識力はもちろんですが、集中力や連携力など精神的なものも大きく必要になってきます。そして、もしかしらこれが研究に触れる最後の機会となる人もいるかもしれません。そのようなことから、この単位は大学卒業だけのためと考えず自分の学生時代の集大成だと思って、これまでに見たこと、聞いたこと、そして感じたこと・・・五感をフル動員して取り組んでくれたらと思います。



4月にキャンパス内で見られた分蜂です。

みなさんも色々発見してみてください。